

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査の後に保管されている残った試料（診断のために採取した細胞の病理検体など）を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報や保管されている試料を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	頭頸部がんの治療選択における SLFN11 の有用性
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	耳鼻咽喉科頭頸部外科 医員 細川 裕貴
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2029年3月31日
対象となる方	2015年4月から2028年3月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうち頭頸部がんと診断された患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、人種、合併症、既往歴、現病歴、前治療歴、CT画像データ、MRI画像データ、治療状況等 (利用する試料) 病理診断のために採取した試料 (病理組織検体)
研究の概要 (目的・方法)	頭頸部がんでは、病勢の進行や治療そのものによって、発声・呼吸・嚥下などの日常生活動作が大きく傷害される場合があります。日常診療の中で治療として手術を行うか、それとも抗がん剤を使用した化学放射線治療を行うか、その選択が非常に難しい場面が多く見られます。そのため抗がん剤の治療効果を予測できるようなマーカーの発見は、頭頸部がんのみならず様々ながん種において、強く期待されています。 この研究では、頭頸部がんに対して抗がん剤治療を受けた患者さんの、治療目的に採取した組織の一部（以下、病理組織検体と称します）を使用させていただきます。当院で保管している試料のみを用いるため、患者さんに新たに負担が生じることはありません。病理組織検体において、抗がん剤の治療効果を予測できる

	<p>可能性がある因子(SLFN11)を免疫組織染色という手法で評価します。これにより、患者さんごとに抗がん剤の治療効果を予測できる因子を確立し、1人1人に適した治療を選択できるようになることを目指します。</p>
個人情報の保護 について	<p>この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報(対応表)は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。</p> <p>また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。</p>
お問い合わせ先	<p>愛媛大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 細川 裕貴 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5366</p>